国内研修成果報告書

〈研修テーマ〉
・過疎の村が高所得を維持できている要因を明らかにする。
・行政と企業の連携により、宇検村の人々の生活や地域福祉がどのように変化したのか探究する。

〈研修場所〉
鹿児島県大島郡宇検村

〈研修期間〉
2026 年 2 月 2 日〜2 月 5 日

〈研修参加人数〉
２名

1.研修動機

宇検村は人口 1,582 人（人口世帯集計表 令和 7 年 11 月末現在）の過疎地域であるにもかかわらず、村民一人当たりの所得が鹿児島県内でも高い水準を維持している特徴がある。この背景には、地域産業の育成や企業誘致、外部資本との連携など、独自の地域政策が存在するのではないかと考えられる。現代福祉学部で学ぶ「地域福祉」や「官民協働」の視点から、過疎地域が持続可能な生活基盤をどのように築いているのかを現地で直接学びたいと思った。また、宇検村役場の職員へのヒアリングの機会を得られることから、政策決定の背景や行政の役割を把握できる点にも大きな意義がある。以上の理由から、宇検村を研修先として選定し、過疎地域における高所得構造と地域福祉の実態を探究することを本研修のテーマとした。

2.研修地概要

宇検村は、奄美大島南西部に位置し、面積約 103 ㎢のうち約 96%を森林が占めている自然豊かな村である。全 14 集落で構成され、最も大きい集落は湯湾（258 世帯 469 人）、最も小さい集落は佐念（15 世帯 25 人）である。就業者は約 740 人で、近年は第 1 次産業が減少し第 2 次産業が増加傾向にある。農業ではたんかんやパッション、マンゴーなどの栽培、漁業では養殖マグロや車エビ、もずくなどが盛ん。商業は小規模事業者が中心で IT 企業はなく、近隣市町村へ通勤する住民もいる。村内は通勤時間が短く、人との距離が近い一方、仕事の選択肢や収入水準には限りがある。起業は初期費用が抑えやすく地域の支援も得やすいが、市場規模や人材確保が課題である。移住支援や農業支援制度、親子山村留学制度など行政の後押しも整備され、保育所や小中学校では少人数教育や英会話、読み書き支援など特色ある教育が展開されている。

3.研修内容

宇検村役場企画観光課および健康福祉課の職員の方にヒアリングを行った。はじめに宇検村の歴史的背景について説明を受けた。以前は林業で栄え、真珠生産も盛んであったが、時代の変化とともに主要産業は衰退した。第三セクター事業の多くは赤字であり、雇用創出のために企業誘致の努力を続けてきた経緯があるそうだ。村民一人当たりの所得が鹿児島県内でも高水準を維持している理由については、統計上の算出方法が関係していることがわかった。村全体の所得を総人口（乳幼児から高齢者まで）で割る。そのため就業者割合や公務員比率の高さが影響し、数値上高く見える。実際、人口の約 1 割が役場職員であることも伺った。

近年は U ターンや山村留学制度の影響により転入者が増加しており、交流人口・関係人口の拡大に力を入れている。地域おこし協力隊は 3 年間の任期で、起業準備期間として機能しており、これまでに 10 名程度を受け入れてきた。企画観光課では、関係人口の創出、マン

グローブ保全活動、観光施策の実験的取り組みなどを推進されているという。健康福祉課では、子育て支援や保育所運営、住民アンケートの実施などを通じ、住民との距離の近さを活かしたきめ細やかな支援を行っている。高齢者同士の見守りやボランティア活動も活発であり、「老から老へ」の支え合いが生きがいづくりにつながっているそうだ。また、宇検村連合青年団という 35 歳以下を中心とした団体の活動参加率は高く、地域活動は活発である。さらに近年のバス路線減少を受け、子どもや高齢者のアクセシビリティを考慮した、「ライド車」を新たに導入したそうだ。これはバスとタクシーの中間的役割を担う予約制の車であり、ネットまたは電話にて予約し、朝 6 時から夜 10 時まで利用できる。加えて、6 年前から特定技能外国人の受け入れを始め、建設業や介護、民泊分野などでインドネシア出身者を中心に活躍している。行政職員が一緒に住民宅へ挨拶回りを行うなど、丁寧な初期支援をしている点が印象的であった。

4. 考察

宇検村の「高所得」は単なる産業発展の結果ではなく、人口の大きさや就業構造、行政職員割合など統計上の要因が大きいことを理解した。しかしこれは事実がないわけではなく、小規模自治体ならではの安定的雇用確保の成果であるとも捉えることができる。研修テーマの一つである「過疎の村が高所得を維持できている要因を明らかにする。」については、統計上の要因によって高所得に見えることが明らかになった。特に印象に残ったのは、行政と住民の距離の近さである。地域おこし協力隊や特定技能人材の受け入れにおいて、行政がつなぎ役としてしっかり機能し、関係人口を増やす努力を続けていらっしゃる。これは官民協働や地域福祉のあり方として必要不可欠なことだと感じた。また、高齢者同士の見守り活動や青年団の積極的な地域参加は、共助の力が強く根付いていることが考えられる。行政サービスだけに頼ることなく、住民主体の活動が生活の質を支えているところが、宇検村の持続可能性を高めていると思う。

さらに、もう一つの研修テーマである「行政と企業の連携により、宇検村の人々の生活や地域福祉がどのように変化したのか探究する。」について考える。企業誘致や特定技能外国人の受け入れは、単に労働力確保なのではなく、地域社会そのものに変化をもたらしていると感じた。建設業や介護分野での人材確保は、村民の生活基盤や福祉サービスの維持に直結している。また、行政が企業と村民の間に立ち、挨拶回りや生活支援を行うことで、外部からきた人が孤立することなく地域の一員として受け入れる仕組みが作られていた。これによって、経済施策と地域福祉がお互いに助け合っている形が展開されているとわかった。

5. まとめ

宇検村は人口規模こそ小さいが、行政の柔軟な施策と住民同士の強い結びつき、さらに外部人材との共生によって地域の力を維持していることを理解できた。高所得構造の背景には統計上の要因がある一方で、雇用創出や移住支援、外国人材受け入れなどの積極的な取り

組みがある。行政と企業が連携することで結果的に、村民の安心した生活や地域福祉の充実につながっている点が印象的であった。今回の国内研修を通して、過疎地域であっても「人との距離の近さ」や「共助」を大切にすることで、持続可能な地域福祉を実現できることを学んだ。

〈参考文献〉

・宇検村村役場, 2025, 「鹿児島県宇検村公式ホームページ」, 最終閲覧日 2026 年 2 月 25 日, https://www.uken.net/

・年収ガイド, 2025, 「鹿児島県宇検村の平均年収・所得」, 最終閲覧日 2026 年 2 月 28 日, https://www.nenshuu.net/